

札幌市立高校教育改革方針（案）に対する 市民意見の概要と札幌市の考え方について

平成 29 年（2017 年）3 月
札幌市教育委員会学校教育部

パブリックコメント手続

平成 29 年 1 月 12 日に札幌市立高校教育改革方針（案）を公表し、同日から 2 月 10 日までの 30 日間、市民の皆さまからのご意見を募集しました。

1 意見募集実施の概要

(1) 意見募集期間

平成 29 年 1 月 12 日（木）から 2 月 10 日（金）まで

(2) 意見提出方法

郵送、持参、FAX、Eメール

(3) 資料の配布・閲覧場所

- ・札幌市教育委員会学校教育部教育推進課
- ・札幌市役所本庁舎（2 階市政刊行物コーナー）
- ・各区役所（総務企画課広聴係）
- ・各まちづくりセンター
- ・市立中央図書館、地区図書館
- ・札幌市生涯学習センター（ちえりあ内）
- ・札幌市青少年科学館
- ・札幌市立学校
- ・札幌市ホームページ など

2 パブリックコメントの内訳

(1) 意見提出者数・意見件数

68 人・152 件

(2) 意見内訳

ア 年代及び提出方法別内訳

【年代別】

年代	19歳以下	20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上	不明	合計
人数	17	2	11	21	9	1	5	2	68

【提出方法別】

提出方法	郵送	持参	FAX	Eメール	合計
人数	11	2	19	36	68

イ 項目別内訳 ※方針（案）の構成に沿って分類

分類	件数	構成比
第1章 札幌市立高校教育改革方針の策定について	2	1.3%
第2章 札幌市立高校における教育の成果と課題	12	7.9%
第3章 札幌市立高校教育改革ビジョン	8	5.3%
第4章 札幌市立高校教育改革実行プラン（第1期）	111	73.0%
1 札幌市立高校教育改革実行プラン（第1期）の施策体系	(10)	(6.6%)
2 札幌市立高校教育改革実行プラン（第1期）における重点項目	(0)	(0.0%)
3 施策及び主な事業・取組の内容	(65)	(42.8%)
基本的方向性1 生徒の個性や能力を伸ばす質の高い教育の充実	(65)	(42.8%)
基本的方向性2 社会に開かれた教育活動の推進	(14)	(9.2%)
基本的方向性3 学校の取組を支える仕組みの構築	(22)	(14.4%)
第5章 方針の推進と進行管理	6	3.9%
その他	13	8.6%
合 計	152	100.0%

3 意見に基づく当初案からの変更点

市民の皆さまからいただいたご意見を踏まえて、当初案から2項目を変更いたしました。また、他のご意見についても、今後の取組を進めるうえで、可能な限り取り入れていきます。

No.	変更箇所	意見の概要	変更内容
1	<p>P1 第1章 1 方針策定の背景・趣旨</p> <p>P4 第2章 1 これまでの取組及び成果</p> <p>P11 第4章 1 札幌市立高校教育改革実行プラン（第1期）の施策体系</p> <p>P13 施策1-（1）-① 基礎的な知識・技能の習得と活かす力や主体性・協働性を育む学びの充実</p> <p>P15 施策1-（2）-① 多様な特色ある教育プログラムの提供</p> <p>P18 施策1-（2）-③ 学習成果を発表する機会の設定</p> <p>P24 施策1-（4）-① 教員の授業力向上のための研修体制の充実</p> <p>P28 施策3-（1）-① 様々なメディア・機会を通じた広報活動の強化</p> <p>P29 施策3-（1）-② 学校の広報活動を支援する組織体制の整備</p> <p>P31 施策3-（2）-② 学校と地域・企業等をつなぐ組織体制の整備</p> <p>P32 第5章 1 推進体制 2 進行管理</p>	<p>○「アクティブ・ラーニング」(※1)や「市立高校コンシェルジュ」(※2)などの専門的な用語は、説明文を併記するなど、分かりやすい表現にすべき。</p> <p>※1【アクティブ・ラーニング】文部科学省が、中央教育審議会の次期学習指導要領に関する答申の中で用いている用語。「主体的・対話的で深い学び」の視点を示すもの</p> <p>※2【市立高校コンシェルジュ】学校外の人材活用や広報活動の支援など、学校の要望に沿って教育活動を支援する総合調整役</p>	<p>「アクティブ・ラーニング」や「市立高校コンシェルジュ」などの専門用語については、日本語での言い換え又は説明を追加しました。</p>

No.	変更箇所	意見の概要	変更内容
2	P32 第5章 3 成果指標一覧	<p>○成果の判断基準は、生徒の満足度ではなく、「生徒自身にどのような力が身に付いたか」ではないか。</p> <p>○成果指標を「市立高校の教育に満足している生徒の割合」や「市立高校の特色ある取組を今後も続けてほしいと考えている市民の割合」とするのは良いのか。他校を経験していない生徒や、実情を知らない市民が判断できるものではないと思う。</p>	<p>成果指標について、設定の考え方の趣旨が正確に伝わるよう、分かりやすい表現に修正しました。</p>

4 パブリックコメントの概要とそれに対する札幌市の考え方

意見の概要	札幌市の考え方
第1章 札幌市立高校教育改革方針の策定について	
1 方針策定の背景・趣旨	
○学習指導要領に関する内容も必要であるが、高校生であれば、社会が求める力（社会人基礎力）に関することも触れる必要があるのではないか。	本方針における取組の一つとして、将来の生き方や進路について考える「進路探究学習の充実」を盛り込んでおり、社会の中で役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現するための資質や能力を育成することとしています。
3 方針の構成と計画期間	
○教育改革ビジョンは10年、実行プランは5年を計画期間としているが、社会変化のスピードが速いだけに、臨機応変に内容を修正する工夫も必要である。	本方針の実施にあたっては、いただいたご意見を参考に取組を進めてまいります。
第2章 札幌市立高校における教育の成果と課題	
1 これまでの取組及び成果	
○普通科だけではなく、語学系、美術系、理科系など、様々な道が用意されており、生徒にとって、自分の興味・関心に照らし合わせ、学校を選ぶことができている。	本方針の実施にあたっては、市民の皆さまの期待に応えられるように努めてまいります。
○中高一貫教育では、生徒はじっくり自分の将来や関心を見極め、学習に取り組むことができる。進学競争は大学入試からで良いと思う。	
○大通高校は、「受け皿」の学校だと認識している。本来「受け皿」であるはずの学校に入学できない生徒がいるのも事実。受け皿となる学校を増やすことは難しいだろうが、受け皿となり得る一部のスペースは必要ではないか。	<p>本方針の期間内に、中学校卒業生数の大幅な減少が見込まれる時期があり、北海道立高校とともに、市立高校も学級削減を行う必要があります。</p> <p>そのような状況において、学校の新設等により受入枠を増やすことは困難であると考えております。</p> <p>なお、各市立高校においては、相談支援体制の強化や通級による指導など、生徒の個々のニーズに対応する学校教育相談体制の充実にも努めてまいります。</p>
○大通高校の取組「まちなか職業体験プロジェクト」は、インターンシップのように、生徒がビジネスの一部を体験するのは異なり、自分たちのいる場所・立場で社会と関わることができている。このような取組が増えることを望む。	様々な事情から学習歴の異なる多様なニーズを持った生徒が在籍している大通高校をはじめ、各校の状況や特色を踏まえ、本方針においても、社会と関わる取組の充実にも努めてまいります。
○大通高校の教育は、多様な価値観を生み、縦横の関係性だけではない人間関係を育むことができ、社会に出ていくうえで非常に良いものである。	大通高校の設置の意義や特色を踏まえ、本方針の実施にあたっては、いただいたご意見を参考に取組を進めてまいります。

意見の概要	札幌市の考え方
○それぞれの高校が独自の取組をしていることは分かったが、具体例がないので実態が分かるような記述があると良い。	各学校の具体的な取組については、学校案内のパンフレットやインターネット等での情報発信や学習成果の発表事業等を通じて、周知に努めてまいります。
○進学も就職もしないまま卒業する生徒がいるとのことだが、このような生徒に対する支援策はあるか。	卒業後の進路が未決定のまま卒業する生徒がひきこもりなどの状況に陥ることのないように、若者支援総合センター等の関係機関との連携も含め、学校教育相談体制の充実を図ってまいります。
2 課題	
○生徒の主体的な学びを引き出すためには、学習の必要性、有用性などを分かりやすく説明することが大切。また、生徒が持っている人間性に気づき、引き出すように関わる必要がある。	本方針の実施にあたっては、いただいたご意見を参考に取組を進めてまいります。
○生徒自身にやりたいことや目標がない中で就職せざるを得ない環境はなかなか変えられない。ワークスタイルが多様であることを知ることが大切であり、これにより、進路の選択肢が増えることになる。	本方針における取組の一つとして、将来の生き方や進路について考える「進路探究学習の充実」を盛り込んでおり、発達段階に応じて、多くの職業を知る学習から興味・関心のある職業について深く学ぶ学習へと、学びを深化させるとともに、社会の中で役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現するための資質や能力を育成することとしています。
○具体的な進路希望などがなく、学力にあった高校に入学する生徒も多い。「高校の選択理由として中学校の成績が優先される状況」が問題視される必要はあるのか。	学校の特色などを理解しないまま、成績のみで学校を選択することにより、入学後に学習意欲を失うことも考えられることから、自らの興味・関心によって学校を選択できるように、中学校とも連携し、普通科の役割も含め、学校の特色などの情報発信に努めてまいります。
○「高校の選択理由として中学校の成績が優先される状況」という課題に対し、学校の特色等を周知すれば解決するという考え方は安易ではないか。	
○1学級の生徒数を減らすことによって、生徒一人一人に深く接することができ、教員の負担も減るのではないか。	1学級当たりの生徒数を減らす場合、財政的負担を伴うことから、慎重に検討する必要があります。 なお、教育内容に応じて、多人数による授業も実施することで、1学級の生徒数を減らすことなく、少人数による授業等を実施することも考えられます。

意見の概要	札幌市の考え方
第3章 札幌市立高校教育改革ビジョン	
1 市立高校の教育改革が目指す姿	
○目指す生徒像、市立高校の将来像、それらの実現に向けた施策の展開や基本的方向性、いずれもよく理解でき、素晴らしい。	本方針の実施にあたっては、市民の皆さまの期待に応えられるように努めてまいります。
○目指す生徒像、市立高校の将来像などについて、札幌市立高校ならではのものがあると良い。	本方針の実施にあたっては、いただいたご意見を参考に取組を進めてまいります。
○目指す生徒像の「積極的に社会と関わり」とは、具体的にはどのようなことか。	社会の様々な課題を身近な問題として考え、より良い社会を築くことに参画していくことであると考えます。
○個性や多様性への寛容さを育むのは良いことだが、個性を伸ばす教育として過度に革新的な方策を講ずることは、教育現場に混乱をもたらすことが多いため、慎重であるべき。	本方針の実施にあたっては、各校と情報共有及び協力して取組を進めるとともに、教員に過度な負担が生じないように配慮してまいります。
○「積極的に社会に関わり貢献する生徒」について、不登校や成人のいわゆる引きこもり等の増加を考えると、生きていくこと、生きていること自体が「貢献」という考え方もあるのではないか。	様々な課題を抱えた生徒がいることは承知しており、社会に貢献する形は様々であることから、本方針も、そのような考え方に基づいて記載しております。
2 基本的方向性	
○質の高い教育の充実に向けては、教員の資質・能力の向上が不可欠である。しかし、これまで各教員が培ってきた経験を一度脱ぎ捨てて、新しい指導方法を取り入れ、授業改善をしていくことは極めて難しいことだが、これこそが最重点である。	各教員のこれまでの経験を生かしつつ、新たな指導方法等を取り入れ、授業改善が図られるよう、教員の資質の向上に係る取組を進めてまいります。
○社会に開かれた学校作りは素敵なことだと思う。学生時代の体験は重要であり、将来に役立つ。	本方針の実施にあたっては、市民の皆さまの期待に応えられるように努めてまいります。
○地域等と連携した教育活動などを進めることは、教員の負担増につながるのではないか。	地域等と連携した取組を進めるにあたっては、学校と地域等をつなぐ調整役である「市立高校コンシェルジュ」の配置などにより、教員に過度な負担が生じないように配慮してまいります。

意見の概要	札幌市の考え方
第4章 札幌市立高校教育改革実行プラン（第1期）	
1 札幌市立高校教育改革実行プラン（第1期）の施策体系	
○都立高校のように、進学重点校などを設置する考えはないのか。	<p>高校には、市立のほか、北海道立や私立の高校があり、特色のある教育を行っている学校や大学等の進学を重視した教育を行っている学校があります。</p> <p>市立高校は、これまでの教育改革を通じた特色ある取組が評価されてきたと考えられることから、例えば、大学受験準備のみに特化した高校の設置は考えておりません。</p>
○各学校が特色化を進めるのは良いが、自ら学ぶ姿勢を育てることも必要である。	本方針の実施にあたっては、いただいたご意見を参考に取組を進めてまいります。
<p>○教育の質の担保及び向上のためには、ICT（※）の活用は有効であるが、ICT環境の整備について、どのような方針か。</p> <p>※【ICT】 Information and Communication Technology の略で、情報や通信に関する技術の総称</p>	ICT環境の整備は、学校の教育活動全般におけるICTの活用など、高校教育だけではなく市立学校全体として考えていく必要があると考えております。
○仕事の本質を考え、社会人としてのマナーを身に付けるための教育も必要。また、自立した札幌人として一番の基本は自炊。食育の観点から、毎週「自分で作るお弁当の日」を設けてはどうか。	本方針の実施にあたっては、いただいたご意見を参考に取組を進めてまいります。
○どこの地域が実施しても変わらない内容であり、札幌特有の風土や状況を背景にした項目があると良い。	札幌の特色や歴史、文化などへの理解を深める学習プログラムを開発するなど、札幌を教材とした学びを通じて、地域への理解を深め、まちづくりへの意識を高める教育に取り組みたいと考えております。
○取組が多岐にわたるため、「札幌市キャンパス化プラン」など、共通言語があると良い。施策は市立高校内の知見だけではなく、全国の先進校の事例を研究して取り組んでもらいたい。単位互換システムはただの学校交流に終わらず、全国の模範になるものを目指して欲しい。	本方針の実施にあたっては、いただいたご意見を参考に取組を進めてまいります。
○教員の負担を軽減する効果的な方策が示されおらず、質の高い教育を充実させるために、教員の負担軽減や負担分散に力を入れてほしい。	本方針の実施にあたっては、教員に過度な負担が生じないように配慮してまいります。
○新しい取組を行うのであれば、既存の取組の終了や縮小を併せて行うべき。	本方針の実施にあたっては、既存事業の整理も含め、検討してまいります。
<p>○具体的なロールモデル（※）を作るべき。そのモデルが共感を得られれば、特色にもなる。</p> <p>※【ロールモデル】役割を担うモデル。模範。手本。</p>	具体的な取組を分かりやすく示すなど、市立高校の取組への理解が広がるように努めてまいります。
○入学者の選抜方法の在り方も考えるべきではないか。生徒の可能性をどのような物差しで計測するのか考慮が必要である。	入学者選抜方法の在り方は、今後、北海道立の高校も含め、高校進学を目指す子どもたちへの影響も考えられることから、慎重に検討してまいります。

意見の概要	札幌市の考え方
3 施策及び主な事業・取組の内容	
基本的方向性 1 生徒の個性や能力を伸ばす質の高い教育の充実	
基本施策 1- (1) 生涯にわたって活用できる力の育成	
○アクティブ・ラーニングや進路指導の充実こそ、生徒や市民が求める教育である。教員の質を高める取組、各校の進路指導体制の充実を図るべき。	本方針の実施にあたっては、市民の皆さまの期待に応えられるように努めてまいります。
○国語の現代文の授業で実際にアクティブ・ラーニングが行われているが、他の人がどのように考えているのか知ることができ、自分の理解がより深まる。	
基本施策 1- (2) 各学校の特色化の充実	
○国際理解教育や情報教育など、生徒の多様なニーズに応える新たな専門学科やコースの設置が必要である。	本方針の実施にあたっては、いただいたご意見を参考に取組を進めてまいります。
○文学系のプログラムも提供できないだろうか。社会が理系を重視する中、文学の重要性を再認識してほしい。	
○新たな専門学科やコースを設置する前に、既存の学科やコースの充実に取り組むべき。また、国の研究開発にかかる指定事業も、その必要性を十分検討すべき。	
○学級数が削減される中で、人材の確保なども含め、新たな専門学科やコースを設置することは可能なのか。	

意見の概要	札幌市の考え方
○生徒の個性を生かし、能力を伸ばさせるために、単位互換システムの構築や単位制導入校の拡大が必要である。	学校間連携は、参加する高校同士が協定を結ぶことにより、例えば、各高校が特色化を進める中で、その成果を共有するために、特色ある科目の一部を他の高校の生徒に開放したり、一つの学校だけでは開講することが難しい特色ある科目を合同で開講したりするものです。
○学校間連携について、単発で他校の授業を受けるのではなく、定期的・継続的に学ぶことができる仕組みの構築が必要である。	したがって、学校間連携によって開講される科目は単発のプログラムではなく、一定期間の履修により単位認定を行うことを前提としています。
○通常は自分の学校でしか学べなかったものが、他校で学ぶことができ、しかも単位取得も可能であることは、目指す生徒像にも合致している。	また、学校間連携は市立高校の間で行うことを基本としますが、条件が整えば、将来的には、市立以外の高校との単位互換も考えられます。
○現在の教育は、多数派の人をターゲットとして決められた能力を伸ばすものになっている。少数派の生徒にこそ多様な個性があると考え。学校間連携が進むことによって、少数派の生徒の個性を伸ばすことのできる教育が充実することを望む。	学校間連携の実施にあたっては、いただいたご意見を参考に取組を進めてまいります。
○単位互換や単位制の導入が拡大していくことは非常に良いことである。	
○他校との関わりは意外と少なく、学校間連携は生徒にとって刺激になると思う。	
○市立高校だけではなく、道立高校や私立高校の生徒を含めた交流する機会も必要ではないか。	
○札幌市内でうまくできたら、道内外の学校との単位互換ができるようになることを願う。	
○各校の独自性や自主性を損なったとしても、行政当局の指導力を強くすべきであり、そうすれば、学校間連携は達成できる。	
○学校間連携による単位互換には反対。受験勉強をあまり頑張らずランクの低い学校に入学した生徒が、ランクの高い学校の教育を受けられるようになるもので、一生懸命勉強してランクの高い学校に入学した生徒は快く思わないのではないか。	学校間連携は、参加する高校同士が協定を結ぶことにより、例えば、各高校が特色化を進める中で、その成果を共有するために、特色ある科目の一部を他の高校の生徒に開放したり、一つの学校だけでは開講することが難しい特色ある科目を合同で開講したりするものです。この取組は、入学後の生徒の興味・関心の変化に対応するとともに、学習意欲や学習に向かう態度の向上などを目的としており、あくまで特色ある科目の一部を学ぶことができるものです。
○グローバル的な内容を学びたいから清田高校に入学するなど、学校の特色によって入学先を選択しているという実態があり、学校間連携はあまり良い結果を得られないのではないかと思う。	また、単位制はこうした学校間連携を円滑に進めるための手段の一つと考えられます。なお、単位制は旭丘高校をはじめ、大通高校や開成中等教育学校において既に導入されており、その枠組みの中で各校の特色化を進めていくことは可能であると考えております。
○単位制の導入校拡大は、現在、単位制を導入している学校の特色を薄めることになる。	
○特色を他校と共有したら、各校の特色が特色で無くなってしまわないか。	
○学校間連携では、特色の共有により、どの学校でも同じ内容の学習ができるようになり、高校選択の理由がなくなる恐れがある。共有するとしても、科目数などを制限すべきではないか。	

意見の概要	札幌市の考え方
○単位互換システムの構築や学習成果の発表など、新たな取組には綿密な計画が必要であり、現場の教員の声も聞くべき。	本方針の実施にあたっては、いただいたご意見を参考に取組を進めてまいります。
○単位互換で他校の授業を受けるとすれば、学校間の移動に課題がある。	学校間連携の実施にあたっては、交通利便性の高い学校を拠点校として授業を実施する方法のほか、インターネット環境の活用により、全ての授業を移動しなくても受講できるようにするなど、今後、具体的な方法について検討を進めてまいります。
○ワークルールなど「労働」を教える時間を設けることはできないか。若くして過労死や使い捨てされる若者が後を絶たないのは、ワークルールを知らず自分自身を守ることができないことも要因の一つであると思う。	学校間連携で提供する科目の検討にあたっては、いただいたご意見を参考とさせていただきます。
○将来の目標等が定まっていない生徒向けに、キャリアビジョン（※）を構築する授業があれば良い。 ※【キャリアビジョン】将来の具体的な理想像	
○コミュニケーション力を身に付ける機会を設けてはどうか。	
○国際理解の幅を広げる学びとして、英語以外の外国語、特に中国語や韓国語なども幅広く学ぶことができる機会を増やしてほしい。	
○単位互換で他校の授業を受けの際、学校間の移動にかかる交通費に対する助成制度を検討する必要がある。	学校間の移動に係る交通費は、原則、受益者負担であると考えております。なお、授業を実施する学校の検討にあたっては、交通利便性なども考慮します。
○学校間連携による単位互換は、生徒のニーズがあるのか。	学校間連携の取組に関する生徒のニーズについては、アンケート調査の結果、他の学校の授業を受けてみたいと考えている生徒が一定程度いることを踏まえております。
○学校間連携は、やり方次第で大がかりなものになり過ぎて混乱を招きかねない。受講者を少数にしておかなければ、出欠確認など運営管理が大変になるだろう。	学校間連携の取組は、希望する生徒に対して選択の幅を広げようとするものであり、全ての生徒の参加を前提とするものではありません。 また、市立高校コンシェルジュの活用などにより、教員に過度な負担が生じないように配慮してまいります。
○単位制の高校では、生徒の単位選択において、大学入試に関するアドバイスなど、教員からのガイダンスが大切である。	単位制の導入にあたっては、国の加配措置により、追加して配置される教員を活用するなどして、きめ細やかなガイダンスなどの実施に努めてまいります。

意見の概要	札幌市の考え方
○学習成果の発表事業は、年 1 回程度の「大会」のようなものだけではなく、日常的な小規模の機会を数多く設定することが必要であり、そこには学校外の企業や団体を巻き込むのが良い。	学習成果の発表は、イベントのために何かをするのではなく、普段の学習活動を披露するものであるとともに、協力者を招き、学習活動の成果を見てもらい、生徒の成長を感じてもらおう機会になれば良いと考えております。
○学習成果の発表事業は、単なる発表に留まらず、どのような力を身に付けさせるのか、また、そのためにどのように実施するのかなど、十分な検討が必要である。	学習成果の発表は、その機会を通して参加する生徒の更なる成長を促すものであり、そのために何かをするのではなく、特色ある取組に参加している生徒が、普段の学習活動を披露するものです。
○学校の特色を広く市民に関心を持ってもらい、応援してもらうためにも良い取組であると思う。また、市立高校を目指す子どもにとって、実際の学習成果を知り、入学する学校を検討する良い機会になる。	この成果発表を通じて、他校の生徒と交流する中で生徒同士が高め合い、主体的に学習に取り組む意欲の向上などの効果も期待できます。 また、日頃協力を得ている外部人材や市立高校に関心を持つ小・中学生や保護者を含めた市民などに、生徒の成長を感じてもらったり、目標を持ってもらったりする機会にもなれば良いと考えております。
○学習成果の発表事業を、中学生だけでなく、小学生とも共有するということがあり、小学校の高学年頃にこのような機会があることは良いことである。	
○学習成果の発表事業は必要なのか。学校の PR に生徒を利用していると感じてしまう。中学生などには学校公開などで十分ではないか。	
○各校の特色ある取組を発信することは、子どもの自己肯定感の醸成につながるとともに、広報にもなる。	本方針の実施にあたっては、市民の皆さまの期待に応えられるように努めてまいります。
○学習成果の発表事業はとても良いと思う。生徒会リーダー研修会でも生徒同士の仲を深めることができた。交流の機会を設けることで、生徒同士で良い刺激となるとともに、市立高校に対する市民の理解も深まると思う。	
○学習成果の発表大会を実施するとともに、市立高校の取組を紹介する冊子を作り、生徒に配布すると、各学校の取組の中で良いと思ったことを真似しやすいのではないか。	本方針の実施にあたっては、いただいたご意見を参考に取組を進めてまいります。
○市立高校コンシェルジュは、学習成果の発表事業において、具体的にどのような役割を担うのか。	市立高校コンシェルジュは、成果発表事業の企画・運営や広報などへの支援を行います。

意見の概要	札幌市の考え方
基本施策 1- (3) 市高スタンダード（全校共通の取組）の展開	
○学びに悩みを抱える生徒等へのニーズに応えるためには、学校教育相談体制の充実が欠かせない。特に、他校履修による弾力的な単位認定は必要であり、具体的な仕組み作りを進めてほしい。	他校履修による弾力的な単位認定は、学びに悩みを抱え、学校に通うことが困難な生徒などについて、一定の要件のもと一定期間、他校での履修を認めるものです。
○校内支援体制の強化や他校履修による弾力的な単位認定などを実効性のある取組にしてほしい。	その際、学校間連携による単位互換の仕組みを活用することにより、単位の修得を可能とすることで、在籍校への復帰を支援するとともに、新たな可能性や方向性を見出す契機とするものです。
○市立高校にも、学びに悩みを抱える生徒がたくさんいると思う。教育相談体制の充実に向け、支援体制の強化が必要である。	他校履修による弾力的な単位認定をはじめ、学校教育相談体制の充実に向けた事業の実施にあたっては、いただいたご意見を参考に取組を進めてまいります。
○うつ病と診断される10代の若者が激増しているという調査結果もあり、カウンセリング体制が充実すると良い。	
○支援を必要とする生徒を対象とする他校履修による単位認定は、どのような仕組みで行うのか。	
○市立高校と特別支援学校高等部の連携は、年に数回程度の授業では生徒たちの交流は深まらない。日常的に交流できる場があると良い。	障がいのある方への支援や、授業のほか課外活動も含めた市立高校と特別支援学校高等部との連携など、本方針の実施にあたっては、いただいたご意見を参考に取組を進めてまいります。
○障がいの有無にかかわらず、一緒に授業を受けたり、活動を共にしたりすることは、高校生の側では障がいへの理解が醸成され、障がいのある生徒の側では自己肯定感の獲得など、両者にとって効果のあるものであり、高校生と特別支援学校の生徒の共同学習などを進めてほしい。	
○障がいのある生徒などへの支援は、支援に特化している学校でしか行われていないように感じる。もっと具体策があると良いと思う。	
○障がい者への支援に関する記載が見当たらない。	
○進路探究学習の充実について、進路別に大学巡りをすると視野が広がると思う	本方針の実施にあたっては、いただいたご意見を参考に取組を進めてまいります。

意見の概要	札幌市の考え方
基本施策 1- (4) 教員の資質・能力の向上	
○教員の資質・能力の向上に関する取組が必要であり、教員の育成支援を重点項目にしてはどうか。	現在行われている札幌市の研修に加え、他都市の先進事例の視察や大学教員などによる講演会の開催など、研修の機会の充実を図ってまいります。
○教育改革の方向性を理解し、実行できる教員の養成が必要である。教員の資質・能力の向上を重点項目にしても良いのではないか。	なお、研修の実施にあたっては、いただいたご意見を参考に、研修に参加しやすい環境づくりに努めるとともに、参加する教員に過度な負担が生じないように配慮してまいります。
○研修体制の充実について、やや漠然とした印象を受けた。更に具体化し、教員の資質が確実に向上するような取組が必要である。	
○教員の能力の違いによって、授業の理解度に差が生じる。教員の授業力向上にもっと力を入れてほしい。	
○大きな研修会を実施するよりも、様々な方法で日常的な授業改善のアイデアを紹介する方が効果的ではないか。	
○開催日時の設定や研修参加への校内理解など、教職員が研修に参加しやすい環境づくりにも努めてほしい。	
○教員にも得意・不得意があり、個性や特性を見極めて仕事に従事する必要がある。学校内では身に付かないような能力を高める仕組みや、教員自身のモチベーションを上げるための仕組みが必要ではないか。	
基本施策 1- (5) 特色ある学びを支える環境の充実	
○生徒の減少による学級削減はやむを得ない部分もあるが、各校がより魅力ある学校づくりに励み、存続に努めてほしい。	本方針の期間内に、中学校卒業生数の大幅な減少が見込まれる時期があり、北海道立高校とともに、市立高校も学級削減を行う必要があると考えております。
○学校の規模が縮小すれば教員数も減るため、少人数での授業の実施は難しいのではないか。	学級削減によって学校規模が縮小され、それにより生じる施設の余剰等を活用することで、少人数での授業の実施や特色ある教育の実践など、教育内容の充実を図ってまいりたいと考えております。

意見の概要	札幌市の考え方
○学級数の削減によって教員数が減れば、多様な教育の幅を狭めるとともに、教員一人に掛かる負担も増えることになる。教員数は、現在の水準が保たれることを望む。	市立高校や北海道立高校の中には、出願倍率が高い学校もありますが、北海道内の高校の適正配置は、出願倍率の状況や中学校卒業生数の状況、私立高校も含めた高校の設置状況等の地域性を踏まえ、北海道教育委員会が行うこととなっており、市立高校においても、北海道立高校とともに学級削減を行う必要があると考えております。
○平成 32・33 年に学級数の削減が計画されているが、道立高校に比べ市立高校の倍率は高く、市立高校の学級数を維持することで、倍率格差の緩和に繋がるのではないかと。	この学級削減によって学校規模が縮小され、それにより生じる施設の余剰等を活用することで、少人数での授業の実施や特色ある教育の実践など、教育内容の充実を図ってまいりたいと考えております。
○学校規模の適正化を検討するにあたっては、道立高校と市立高校の違い、棲み分けなどの基本的考え方を整理するべき。学級削減ではなく、統廃合の検討が必要な時期になっているのではないかと。	なお、学級削減に伴って、教員に過度な負担が生じないように配慮してまいります。
○生徒が減るからといって学級数を減らす必要があるのか。生徒の進路選択の狭めることになるのではないかと。	また、高校就学に係る保護者の費用負担に関しては、高等学校等就学支援金制度により、私立高校も含めて、高校の授業料の負担軽減が図られており、生徒の進路選択の幅は、以前と比べて広がっているものと考えております。
○市立高校の学級削減は必要ないと思う。道立高校においても学級削減が予測され、特色ある市立高校に生徒が集まり、高倍率になると考えられる。	限られた財源の中で、必要な人材の確保及び施設整備に努めてまいります。
○ソフト面だけでなくハード面の充実も必要であり、人材の確保と施設整備が急務ではないかと。	
基本的方向性 2 社会に開かれた教育活動の推進	
基本施策 2- (1) 地域資源を生かした教育の展開	
○高校と企業がつながると社会人になる壁が低くなり、働く目的が明確になり、自分が社会で役に立っているという実感を持てるようになる。	本方針の実施にあたっては、いただいたご意見を参考に取組を進めてまいります。
○受験する大学の学部によっては就職する業種や分野が決まってしまうため、早い時期に企業訪問、就労参加などを体験できることは良い。「13歳のハローワーク」の書籍のように、手引きを作成できればなお良い。	
○大学との連携した取組を進めるうえで、市立大学との連携を積極的に行うべきではないかと。	

意見の概要	札幌市の考え方
○生徒には実践の中で、誰かの役に立っているという感覚を味わってもらいたい。誰かに必要とされているという感覚が自己肯定につながり、自信や将来の仕事の意欲につながってくる。	地域や企業等と連携した取組を進めるにあたっては、市民の皆さまの期待に応えられるように努めてまいります。
○地域や企業、大学等と連携した学習の機会を増やし、社会を身近に感じられるようにしてほしい。	
○地域や企業と関わることで、学校だけに留まらない教育活動を行うことが出来るようになる。	
○企業や大学等との連携はとても良いことである。若い世代との接点を持てることは、連携する大人の側にとっても学びの機会となる。	
○学校での学びが、将来の仕事や生活に結び付いていくという意識を持って、学習できている生徒の割合は高くないように思う。仕事や暮らしとのつながりを感じられる教育が必要ではないか。	
○社会とのつながりに重点を置いているようだが、これまでのカリキュラム（教育課程）に単純に付け加えたように見える。付加された分、勉強面が疎かになるのではないか。	基礎的な知識・技能の習得と地域等と連携するなどの特色ある教育はバランスよく実施することが大切であり、学習意欲の向上などの相乗効果も期待されます。したがって、どちらか一方に偏するものではないと考えております。
○地域や企業等と連携する場合、連絡調整が大きな業務負担となるため、それに対する支援策が必要である。	学校と地域等をつなぐ調整役である「市立高校コンシェルジュ」を配置し、地域等との連絡調整を行うなど、学校の地域等と連携した教育活動を支援します。
○地域等との連携において、学校と地域等、どちらが主体となって教育を行うのかを明確にしておくべきである。	地域等との連携した教育活動の推進は、教育を学校内に閉じることなく、社会に開かれた教育活動を行うことにより、将来的に社会に貢献する基盤を培い、学校から社会への円滑な移行を促進することを目的としております。教育の主体は基本的には学校であります。内容によっては地域が主体となって実施していただくことが望ましい場合もあります。
基本施策 2- (2) 地域に貢献する人材の育成	
○地域の魅力や課題と結びつけた学習は、自分の住んでいる地域を知ることによって見えてくるものもあり、重点的に進めても良いのではないか。	地域や企業等と連携した取組を進めるにあたっては、市民の皆さまの期待に応えられるように努めてまいります。
○地域の魅力や課題と結びつけた学習の推進は良い施策だと思う。	
○市立高校では、自分たちで地域の課題を見つけ、地域と連携しながら、解決策を考えていくような教育を行ってほしい。	

意見の概要	札幌市の考え方
基本的方向性 3 学校の取組を支える仕組みの構築	
基本施策 3- (1) 広報活動の充実	
○市立高校への理解促進や地域等と連携した教育活動を進めるため、教育委員会だけではなく、他部署と連携して、戦略的な広報活動を行う必要がある。	広報活動の実施にあたっては、メディア・リテラシー教育の視点も踏まえ、いただいたご意見を参考に取組を進めてまいります。
○市立高校の教育に対する市民の理解を広げるために、広報活動を充実させる必要がある。	
○市立高校の取組に対する社会の認知度は低い。もっと市民に知ってもらうために、インターネットのほか、広報さっぽろや情報誌などの紙媒体による広報も行うべきである。	
○生徒自らがソーシャル・ネットワーキング・サービス（SNS）（※）などを活用して情報発信をすることで、広報活動の充実とともに、ネット・モラル学習への効果も期待される。 ※【ソーシャル・ネットワーキング・サービス】インターネット上でのメッセージのやり取りなどを通じて、人と人の交流を広げていくサービス	
○生徒による広報活動は、メディア・リテラシー（※）教育と捉えると良い。 ※【メディア・リテラシー】インターネットやテレビ・新聞等のメディアを使いこなし、メディアの伝える情報を理解する能力	
○自分の学カランクによって入学する高校を決めることが多い。中学3年になってからではなく、早い時期から各学校の特色に触れられる機会や仕組みがあると良い。	
○中学生に対して、教育内容や部活動など各学校の特色をもっと周知した方が良い。	
○小・中学生や保護者等に対する広報に力を入れるべき。生徒自身による情報発信の取組を進めると良い。	
○市立高校の特色や魅力を周知するため、小・中学校の教員や保護者向けの情報発信に力を入れるのは良いことである。	
○地域はもちろん、そのベースとなる家庭、保護者との連携は不可欠である。保護者への理解浸透などに関する項目はあまりないが、具体的な取組を考えているか。	

意見の概要	札幌市の考え方
○校内でSNSを利用できるように、Wi-Fi の整備をしてほしい。	個人情報取り扱いや不適切な表現の使用など、生徒が情報発信を行う場合の課題を考慮した上で、フィルタリングの解除や掲載基準の策定などにより、生徒の情報発信が円滑かつ適切に行われるよう努めてまいります。
○学校のパソコンから直接SNSに投稿できるようにフィルタリングを外してほしい。	
○生徒主体の情報発信はとても良いが、情報の適格性など、掲載基準を明確にする必要がある。	
○どれだけの生徒が各校の特色を目当てに学校を選択し、何を学び、どのように成長し卒業していくのかを周知すると良い。	本方針の実施にあたっては、いただいたご意見を参考に取組を進めてまいります。
○「学校の取組を支える仕組みの構築」の事業によって、学校の負担は軽減すると考えているか。	本方針では、基本施策として広報活動の充実や外部との相互連携の推進を掲げていますが、これらの取組を教員が担うことは過度な負担となりがねないため、市立高校コンシェルジュを配置し支援を行うことで、負担軽減を図ってまいります。
○学校の負担軽減とは何を減らすのか。部活動の顧問業務の軽減などを想定しているのか。部活動は、生徒にとって重要な活動であり、生徒に不利益をもたらす負担軽減策はやめてほしい。	本方針に掲げる新たな取組を実施するにあたっては、教員に過度な負担が生じることも考えられることから、市立高校コンシェルジュによる支援を盛り込んだものです。 今後は、市立高校コンシェルジュが広報や外部との連携における調整役を果たすことで、学校や教員の負担軽減を図っていきたいと考えております。
基本施策 3- (2) 外部との相互連携を進める仕組みづくり	
○学校と企業等が連携することの価値やメリットを明確にできないか。単純な宣伝広告としての価値ではなく、労働力やアイデア創出、リクルートといった観点で、価値などを明確にできれば、学校と企業等の両者にとって利益のある関係を構築できるのではないか。	学校と地域等をつなぐ調整役である「市立高校コンシェルジュ」は、市立高校の取組を良く理解している外部人材と幅広い業態の企業や大学等の人材とのつながりを持つ外部人材に委嘱する予定です。 企業や大学等との連携にあたっては、市立高校コンシェルジュが連携して学校と地域等の連絡調整を行うことにより、学校と企業等、お互いがメリットを見出せる形で連携した取組が行われるよう努めてまいります。
○連携した活動を行うにあたって、負担が大きいのは教員ばかりでなく、企業側も同様であり、学校と企業等が共に無理なく活動できる方法を考えなければならない。	
○市立高校コンシェルジュを置いても高校の動きには限界がある。まずは大学との連携を強化し、大学を介した企業等との連携が現実的である。	
○広報活動と外部連携は重要である。自分のように教育関係者ではない市民も、積極的に高校生たちの取組に関わるべきだと感じている。	広く市民の方々が、市立高校の取組に興味を持ち、その取組に関わっていただけるよう、情報発信に努めてまいります。
○大通高校の支援に関わっているが、生徒が必要する支援は多様であり、教員だけで対応することは難しい。就労支援については、低学年のうちから、NPOなどと連携して進められると良い。	本方針の実施にあたっては、いただいたご意見を参考に取組を進めてまいります。

意見の概要	札幌市の考え方
○学校と外部との調整役は、民間企業や非営利団体（NPO）に委託すべき。教員の負担を増やすのは避けるべき。	本方針の取組を進めるにあたっては、市立高校コンシェルジュが広報や学校と地域等との連絡調整などの役割を担うことにより、教員に過度な負担が生じないように努めてまいります。

第5章 方針の推進と進行管理

1 推進体制	
○具体的な方向性は素晴らしいと思うが、これらの取組を実現するためには、強い力を発揮できる体制づくりが必要である。	本方針を推進する体制については、教育委員会や学校だけではなく外部の支援者を含めた、市立高校全体を支援する仕組みを構築するなど、具体的に検討してまいります。
○事業を実効性のあるものにするためには、事務局機能の質の高さが重要になることから、推進体制はもっと具体的にしておくべき。	
3 成果指標一覧	
○卒業生を受け入れる企業や大学等の評価も必要ではないか。	成果指標とともに、連携先となる企業や大学等からの意見や、取組に参加したり、協力したりした人からの意見も踏まえて、事業の改善を図ってまいります。
○データによる見える化で評価すべきであり、総花的・抽象的な評価をもって、成果とするのはいかがか。	
○大学と連携するならば、大学へのヒアリング調査などにより、高校時代の学びの効果を検証することを考えてみてはどうか。	

意見の概要	札幌市の考え方
全体に対する意見	
○近い将来を見通すことも困難であるが、この教育改革が大きな成果を挙げることを期待している。	本方針の実施にあたっては、いただいたご意見を参考に取組を進めてまいります。
○各高校がそれぞれの特徴を生かし、連携しながら教育活動を進めていくことを願う。	
○地下鉄のポスターなどで平岸高校の生徒の作品を目にすることがある。学校で学んだことが社会の役に立っているという実感を持てることは素晴らしいことである。	
○最近、札幌を訪れる外国人の方が多い。市立高校を卒業した生徒が、通訳や札幌の国際交流を推進する一員として活躍するような人になってもらいたい。	
○通常の教科の勉強に重点を置きすぎて、個人が身に付けたい能力などを学ぶ機会が少なくなっており、改善すべきではないか。	基礎的な知識・技能の習得と地域等と連携するなどの特色ある教育はバランスよく実施することが大切であり、学習意欲の向上などの相乗効果も期待されます。したがって、どちらか一方に偏するものではないと考えております。
○取組を進めるうえで、「人・物・金」は欠かせない。効果のある取組を実施できるように人的配置や財政措置などを行ってほしい。	限られた財源の中ではありますが、学校教育全体のバランスの中で、既存事業の整理も含め、効果的に事業を実施できるよう努めてまいります。
○貧困格差に伴う家庭の教育力の差が大きくなりつつある状況を認識する必要がある。	本方針の実施にあたっては、いただいたご意見を参考に取組を進めてまいります。
○生徒の日々の活動を見ていると、全体的に忙し過ぎるように感じる。	本方針の実施にあたっては、既存事業の整理も含めて検討し、生徒に過度な負担が生じないように配慮するとともに、高校段階の生徒が取組への参加なども含めて、適切に自己管理できる力を身に付けることも必要であると考えます。
その他	
○冬になると、旭丘高校の前の坂が雪で滑りやすく危険なので、ロードヒーティングを設置してほしい。	登下校の安全確保に努める観点から、いただいたご意見を参考にさせていただきます。

札幌市立高校教育改革方針（案）に対する
市民意見の概要と札幌市の考え方について

平成 29 年（2017 年）3 月発行
札幌市教育委員会学校教育部教育推進課
〒060-0002
札幌市中央区北 2 条西 2 丁目 S T V 北 2 条ビル 3 階
（電話）011-211-3851 （FAX）011-211-3852

市政等資料番号

01-S02-17-350